
真ネギま マギカZ 外伝

沈没船長

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

真ネギま マギカZ 外伝

【Nコード】

N2377BA

【作者名】

沈没船長

【あらすじ】

本編の真ネギま マギカZの外伝的話。話しの間にあつた小ネタやIFストーリーを適当に掲載！

模擬戦

紅き翼が完全なる世界に反撃を開始し、調査や協力者作りをしているとき。

そんな頭脳労働が苦手or不得意な人物たち、ナギ・ラカン・マミの通称バグ戦隊は暇をもてあましていた。

この中に詠春も入る事があるが、彼とて次期日本呪術協会長なのだから多少の政治的駆け引きを心得ているので3人ほど暇ではない。

「暇だなあ〜」

「そうだなあ〜、マミ〜いつちよ模擬戦でもしねえか？」

「そうね〜、連絡があるまでやることがないものね〜」

最初は楽でいいやと思っていたがなかなか尻尾をつかめずにいる上に、原作よりも戦力が大幅に増えたせいで3人の仕事は減っていた。

雑魚や中堅なら機械獣と他のメンバーで余裕で潰せるが、3人が投入されるくらいの大物はそうそう引つかからない。

さすがに戦闘よりも休息が長いとやる事もなくなってくるようだ。

「ナギはどつするの?」

「昨日したから俺はいいや」

「ぬっふっふっふ、今日こそどっちが上か白黒つけようぜ」

「いつも引き分けですからね。いい加減決着をつけましょうか」

「両者は少し距離を置き対峙しいつでも仕掛けられるように構えを取った。

「じゃあ、この石が落ちたら開始だぞ」

2人の戦いを見物するために少しはなれた丘に陣取ったナギが、開始の合図とするための石を投げた。

「ラカンーーー」

「光子カウ……」

そして、石が地面についたと同時に

「インパクト！（弱）」

「ビーム！（旧版&弱）」

互いの必殺技の低威力版を同時に放ち試合開始のゴングを高らかに鳴らした。

それから数時間後、調査と下部組織を潰してきたアルビレオたちが戻ってきた。

「ナギ、戻りましたよ。ラカンとマミは……、あそこですか」

「おお、戻ったかお前ら。」

「また、やってるのか……。日に日にここいらの地形が変わっていつてるぞ」

「あんな所に池なんぞなかったしの」

戦っている人物たちが規格外すぎるため周辺の被害もまたとんでもないことになっていた。

『ラカン・適当に連打！』

『光子力マシンガンパンチ！』

「今度は谷が形成されそうじゃの」

「無茶苦茶すぎるぞ……」

2人の拳打がぶつかり合った衝撃波が地面を削り徐々に谷ができている。

『気弾・ラカン玉!』

『光子力居合い拳!』

「人の技パクるなよ…。それにそれはただ拳圧をとばしてるだけだぞ」

「それよりも流れ弾があちこちにクレーターを作ってますよ」

遠距離ではらちがあかないと離れた距離を再びつめて始めていた。そしていいかげんに決着をつけるためにそろって必殺技といえるものを繰り出そうとしていた。

『うらあ！ラカン！必殺パンチ!!』

『はあ！光子力！ダイナマイトパンチ!!』

技名からはとてもそうは見えないが、一流どころか下手な超一流でも巻き起こされる衝撃波に触れただけで倒せるだろっ豪腕が途方もない速度でぶつかった。

「皆さん伏せてください!」

「姫様伏せて!!」

さっきまでの余波で地形が変わっていたのだ。それが先ほど繰り出していたものよりもさらに凄まじい一撃が引き起こすであるっ衝撃波に備えてアリカ姫やタカミチ、クルトを大急ぎで地面に伏せさせて全周囲防御をおこなった次の瞬間。

ズドン！

至近距離に砲弾が落下したような音の後に、周辺に生えていた樹木の数本と岩といくつか吹き飛ばすほどの衝撃波が彼らがいる地点に到達した。

2発目が来るかとまだ防御を継続していたアル達がいつまでも来ない2発目を不思議がり防御を解きラカンたちがいる場所を見つめると。

大笑いしているラカンと膝を突きうつむいているマミがいた。

「どうやらラカンの勝利のようですが」

「勝利の理由がわからんな？マミもラカンも軽傷とっていい状態だぞ」

「直接聞けばいいじゃろう。向かってきておるしの」

勝負が決した理由がわからずにアルと詠春が不思議がっている間に立ち上がったマミとひとしきり笑ったラカンが向かってきていた。

「おつかれ！それで勝因はなんだったんだラカン？」

「ああ、こいつ同じ技名を2回言ったんだよ」

「く、少しこだわりすぎたわね」

「どんな勝負をしてるんだお前らは！」

周辺の被害に比べてあまりにも子供じみた勝利条件に思わず詠春が突っ込んだが。

「何いってんだ、技名は重要だろうが」

「そうよ。それに詠春だって叫んでいるじゃない」

「ぐ……、しかし私のは神鳴流としての」

「おなじだろ（でしょ）」

が、お前も同じだと逆につこつまれてしまい撃沈された。

「おもしろそうだな！次は俺としようぜ、もちろん同じルールでな
！！」

次は俺だ！と意気込んだナギだったが2人のほうは

「いや、ナギお前じゃ無理だ」

「何でだよ！」

「だってあなたって言うか魔法使いは」

「技名固定じゃない（だろうが）」

「しまったーーーーー!!」

精霊の命令を出すために魔法の詠唱や魔法名は変更ができません。身体強化だけでは2人には太刀打ちできず、無詠唱ではそもそも勝負にもならない。

自身の致命的な弱点に気がついたナギが膝から崩れ落ちる姿を横目に。

「アホじゃろ」

「アホですね」

今日も紅き翼は平常運転のようだ。

模擬戦（後書き）

こんな感じの話を思いついたら載せていきます！
あまりシリアスや真面目な話を期待しないように！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2377ba/>

真ネギま マギカZ 外伝

2012年1月6日00時50分発行